

| 重点目標  | 具体的取組   | 主担当   | 現 状   | 評 価 の 観 点   | 実 現 状 況 の 達 成 度<br>判 断 基 準   | 中間評価等  | 備 考   |
|---|---|---|---|---|--|--|---|
| 1 ICTの効果的な活用や主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。 | ① 研究授業、相互参観授業を通して授業改善を図り、探究的な学習活動や質の高いグループ活動などを取り入れた授業を実施する。        | 教務課   | 生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は81%であった。ICTを活用しやすい環境の中で、教師・生徒ともに発表や学びあいといった授業改善が進んでいる。さらに生徒用タブレット端末やWi-Fi環境の充実が期待される。 | 【満足度指標】<br>全ての教員がICTを活用した効果的な授業を実践し、研究授業や相互参観授業に取り組み、肯定的評価をさらに向上させたい。   | ICTの活用など授業に工夫が見られるとする肯定的評価が<br>A 80%以上<br>B 75%以上<br>C 65%以上<br>D 65%未満  | 生徒による前期授業評価アンケートで肯定的評価<br>85%<br>→評価【A】  | コロナ禍の状況で、ICTを効果的に活用した学習をさらに推進したい。<br>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。                     |
|   |   |   | 生徒による授業評価アンケートでの肯定的評価は78%であった。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、生徒が達成感を味わえるように授業改善を行っている。                           | 【努力指標】<br>学力がついてきているという肯定的評価が高まり、成績に反映するように主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に取り組む。   | 授業を通じて学力がついてきているという肯定的評価が<br>A 85%以上<br>B 80%以上<br>C 75%以上<br>D 75%未満  | 生徒による前期授業評価アンケートで肯定的評価<br>80%<br>→評価【B】  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   | ② 「総合的な探究の時間(西高SDGsプロジェクト)」の活動を通して、主体的・探究的に学び活動する態度を養う。             | 進路指導課   | 2年続けて肯定的評価が90%以上と高い評価であったが、これに満足せず、さらに充実した内容となるよう改善を加えていく。  | 【満足度指標】<br>プロジェクトに対して年間を通じて主体的・探究的・協働的に取り組んだ、とする肯定的評価を維持する。   | 生徒によるアンケートで「主体的・探究的・対話的に活動に取り組んだ」とする肯定的評価が<br>A 95%以上<br>B 90%以上<br>C 85%以上<br>D 85%未満                           | 年度末に評価   | 年度末の振り返りの時間に、1・2年生対象のアンケートを実施して評価。<br>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。                    |
|   | ③ 家庭学習時間量調査を実施して現状を把握・分析し、指導することで進路実現にむけた学習時間の確保を促す。                | 教務課<br>各学年  | 生徒による学習時間量調査の結果によると、目標達成生徒の割合は16%であった。  | 【努力指標】<br>目標とする家庭学習時間を「学年+1時間」に設定し、達成する生徒の割合を40%以上にする。  | 家庭学習時間が「学年+1時間」に達している生徒の割合が<br>A 40%以上<br>B 30%以上<br>C 20%以上<br>D 20%未満  | 1学期の家庭学習時間調査(6、7、9月平均)<br>→評価<br>1年【A】41%<br>2年【D】4%<br>3年【A】52%<br>全体では【B】32% | 前年度は1年(17%)2年(2%)3年(18%)家庭学習を必要とする授業の実践に努め、目標を達成していく。<br>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。 |
|   | ④ 校外模試のデータを教科と学年が連携をとって分析し方策を検討することで、学力向上に結び付ける                     | 進路指導課<br>1・2年   | 昨年度の1月校外模試3教科型偏差値が52以上の生徒は、1年生は101名(32%)、2年生は93名(29%)であった。  | 【成果指標】<br>1・2年1月の校外模試で3教科型偏差値が、52以上の生徒の割合が、35%以上を目指す。   | 1月の校外模試3教科型偏差値52以上の生徒の割合が<br>A 35%以上<br>B 30%以上<br>C 25%以上<br>D 25%未満<br>※1・2年別に判断する                             | 当該模試の結果で評価する。  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   | 進路指導課<br>3年   | 昨年度3年生は10月記述模試偏差値50以上が44名(14%)、11月マーク模試偏差値52以上が23名(7%)であった。現3年生は、2年1月記述50以上が110名(34%)、2月マーク52以上が83名(26%)であった。 | 【成果指標】<br>3年校外記述模試において、偏差値50以上及びマーク模試偏差値52以上の生徒の割合が30%以上を目指す。   | 10月の校外記述模試偏差値50以上が<br>A 30%以上<br>B 20%以上<br>C 15%以上<br>D 15%未満<br>11月のマーク模試総合偏差値52以上が<br>A 30%以上<br>B 20%以上<br>C 10%以上<br>D 10%未満 |  |  |   |
|   | ⑤ 進路学習を充実させることで、高い進路目標を持たせ、最後まで目標実現のため努力を継続させる指導を行う。                | 進路指導課   | 昨年度の合格者数<br>①難関国立大学、金沢大学 7人<br>②北信越地区の国立大学 21人<br>③北信越地区の公立大学 41人   | 【成果指標】<br>右の①～③の評価項目のうち3項目以上をクリアすることを目指す。   | ①難関国立大学、金沢大学に5人以上合格<br>②北信越地区の国立大学に20人以上合格<br>③北信越地区の公立大学に30人以上合格<br>A 3項目クリア<br>B 2項目クリア<br>C 1項目クリア<br>D クリアなし | 年度末の実績で評価  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
| 2 組織的な生徒指導を通して、規範意識を高め、将来の自覚を促したる社会人たる判断力・行動力を養う。             | ① 朝の挨拶運動において生徒会と協力して活性化を図る。自ら発する伝わる挨拶を実践し、社会人として必要なコミュニケーション能力を培う。  | 生徒課   | 登校時の挨拶指導の中で進んで声を発して伝えてくれる生徒の数が昨年は減少したと感じている。生徒の立場では挨拶について自己評価は甘く、行っているつもりで生徒が多くみられ改善が必要である。昨年度は、80%。        | 【成果指標】<br>自ら相手に対し、挨拶を発することができたかどうかの自らの部分を強調した生徒アンケートから評価する。   | 学期末ごとの生徒アンケートから、いろいろな人に自ら発して伝わる挨拶ができたが、<br>A 90% 以上<br>B 85% 以上<br>C 80% 以上<br>D 80% 未満                          | 生徒による前期学校評価アンケートで肯定的評価<br>94%<br>→評価【A】  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   | ② 登校指導等において、自転車乗車マナーの向上を目指し、交通ルール遵守の精神を忘れず、安全に配慮できる判断力と注意力を身につけさせる。 | 生徒課   | 昨年度の交通違反件数は計15件と一昨年の35件から大幅に減少した。15件という数値は約900名自転車通学を実施している高校としては県内上位に当たる少なさである。今年度も継続指導を実施したい。             | 【成果指標】<br>県教委からの自転車乗車違反指導件数から評価する。  | 自転車乗車違反件数が、年度末累計で<br>A 20件 未満<br>B 20件 以上<br>C 30件 以上<br>D 40件 以上  | 今年度9月末<br>2件<br>(内訳)並進2<br>→評価【A】  | 前年度9月末では、11件(内訳)二人乗り2 信号無視1 携帯1 イヤホン4 並進1 通行方法1 その他1                              |

|   |   |  |                                    |   |  |   |  |   |
|---|---|--|------------------------------------|---|--|---|--|---|
|   | ③ | いじめは決して許されない行為であることを周知し、他者の心情を配慮できる思いやりの心を醸成する。未然防止に取組とともに、居心地の良い学校づくりに努めていく。      | 生徒課                                | 昨年度のアンケート結果は86%で、いじめに関して認知することはなかった。一人一人の生徒が居心地の良い学校環境と言える居場所づくりを更なる教職員の連携で実践していきたい。            | 【成果指標】<br>互いを尊重できる居心地の良い学校かどうか、学期末アンケートから評価する。   | 互いを尊重できる居心地の良い学校であるかのアンケート集計で、肯定的評価が<br>A 90%以上<br>B 80%以上<br>C 70%以上<br>D 70%未満  | 生徒による前期学校評価アンケートの肯定的評価<br><br>86%<br><br>→評価【B】  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   |   | ④ 自己管理能力を高めるために、自らの健康問題にしっかりと向き合う態度を養う。  | 保健相談課<br>各学年                       | 健康診断の結果、各検診の要受診者の受診率が低く、自らの健康課題に関する意識も低い傾向が見られる。昨年度の歯科の受診率は、20.4%だった。                           | 【成果指標】<br>健康診断を主体的に受けさせることで受診率の向上を図る。特に低い歯科の受診率を前年度以上とする。  | 歯科の受診率が<br>A 50%以上<br>B 40%以上<br>C 30%以上<br>D 30%未満   | 年度末の実績で評価  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
| 3 | ① | 文武両道の実践のもと、部活動の更なる活性化を図り、心身の錬磨を通して、人間力を高めチャレンジ精神を培う。                               | 生徒課                                | 昨年度までは部活動への加入状況を指標としていたが活動状況の内面を重視する視点から質問を変更した。  | 【成果指標】<br>部活動加入者に、生徒アンケートを行う。  | 充実感や達成感が感じられる部活動が行えているかの肯定的評価が<br>A 80%以上<br>B 70%以上<br>C 60%以上<br>D 50%未満  | 生徒による前期学校評価アンケートの肯定的評価<br><br>85%<br><br>→評価【A】  | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   |   | ②  | 運動部・文化部ともに計画的かつ効率的な練習を行い、好成績につなげる。 | 生徒課   | 県高校総体総合成績については一昨年15位から昨年度21位へ後退した。文化部については、賞状の枚数の増加だけでは測りきれないが、より活性化につながるよう指導面・環境面のさらなる整備が必要である。 | 【成果指標】<br>部活動の練習内容の充実(科学的トレーニングの導入、効率化、自主性)によって前年度以上の成果を目指す。<br>運動部については、県高校総体総合成績の順位によって評価する。<br>文化部については、各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数によって評価する。 | (運動部)<br>県高校総体総合成績が<br>A 10位以内<br>B 20位以内<br>C 30位以内<br>D 31位以下<br>(文化部)<br>各種大会・コンクールにおける年間の獲得賞状枚数が<br>A 20枚以上<br>B 15枚以上<br>C 10枚以上<br>D 10枚未満 | 年度末の実績で評価   |
| 4 | ① | ボランティア等の諸活動や情報の発信を通して、保護者との連携を密にされる学校づくりを行う。                                       | 教務課<br>総務課<br>各学年                  | 保護者による学校評価アンケートの結果によると、肯定的評価は85%であった。   | 【満足度指標】<br>学校の情報提供による満足度を80%以上にする。   | 学校の情報提供は十分に行われているという保護者が<br>A 85%以上<br>B 80%以上<br>C 75%以上<br>D 75%未満  | 保護者による前期学校評価アンケートで肯定的評価<br><br>90%<br><br>→評価【A】   | C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。  |
|   |   |  |                                    | 昨年度、PTA総会・教育ウィーク時の保護者の来校者数はのべ726名であった。  | 【努力指標】<br>PTA総会、教育ウィーク時の保護者の来校者数を増やす。また、進路説明会などの来校者数も増やしていきたい。                                   | PTA総会、教育ウィーク、進路説明会等での保護者の来校のべ人数<br>A 800名以上<br>B 600名以上<br>C 400名以上<br>D 400名未満   | 現時点での実績<br>・1年進路説明会 212名<br>・2年進路講演会 183名  | 前年度の実績<br>・1年進路説明会 217名<br>・2年進路講演会 161名<br><br>Dの場合、評価結果を分析し方策を検討する。     |
|   | ② | 各分掌や各学年、各教科と連携し、生徒の読書活動を促進する。  | 総務課                                | 昨年度12月末までの図書館の貸出冊数は、生徒1人当たり1.5冊であった。  | 【努力指標】<br>生徒の読書活動を促進する。  | 図書館の貸出冊数生徒1人あたり1月末までで<br>A 4冊以上<br>B 3冊以上<br>C 2冊以上<br>D 2冊未満   | 4/1~9/30集計<br><br>1.6冊<br><br>→評価【D】   | 4/1~7/31集計<br>前年度0.8冊<br><br>Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。                       |
|   | ③ | 節電・節水、ゴミの分別や紙の3R活動を通して、環境保全活動への意識関心を高める。   | 保健相談課                              | 環境委員会活動を通して、環境に対する生徒の意識を高めてきたが、環境保全活動に対する意識が薄い。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』の実践が回収率は64.2%であった。 | 【成果指標】<br>生徒のエコ活動を推進し、環境に対する意識を高める。『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、前年度以上の回収率を目指す。             | 『いしかわ家庭版環境ISO「省エネ・節電アクションプラン」』を実践し、その回収率が<br>A 60%以上<br>B 50%以上<br>C 40%以上<br>D 40%未満   | 今年度の回収率<br><br>89.4%<br><br>→評価【A】   | 前年度の回収率<br><br>64.5%<br><br>C、Dの場合、評価結果を分析し、方策を検討する。                      |
| 5 | ① | 「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」を踏まえ、教職員の時間外勤務縮減に向けて勤務時間を適正に管理し、業に業務改善に向けた学校マネジメント推進するための取組を行う。 | 教頭                                 | 昨年度の職員へのアンケート結果では、肯定的評価は65%であった。今年度も引き続き、業務の質的向上とワークライフバランスに繋がる業務改善に取り組む必要がある。                  | 【努力指標】<br>具体的な取組を実践し、時間外勤務が減少した教職員の割合を増加させる。   | 具体的な取組を実践し時間外勤務が減少した教職員の割合が<br>A 80%以上<br>B 60%以上<br>C 40%以上<br>D 40%未満   | 職員への前期アンケートの結果「ワークライフバランスを意識し、業務の効率化に取り組み、時間外勤務が減少している」の肯定的評価<br><br>57%<br><br>→評価【C】   | 今年度は、コロナ感染拡大防止に関わる業務が新しく加わったこともあり教職員の多忙感が増加している。効率的な業務の視点で働き方改革を推進していきたい。 |

